

要旨

【目的】

本研究は、外国人看護師と働く日本人看護師の学習ニーズに基づき、インストラクショナルデザインと変容学習理論を用いて開発した「外国人看護師と協働するための日本人看護師向け教育プログラム」の効果を検証することを目的とした。

【方法】

研究デザインは、教育プログラムに参加する介入群と、参加しないコントロール群に無作為に割り付けたランダム化比較試験である。研究対象者は、日本語を第一言語とし、日本で看護師教育を受け、日本の看護師資格をもち、プログラムへの参加を希望する者とした。教育プログラムの目的は、日本人看護師が外国人看護師と協働するために必要な態度、知識、スキルを身につけ、それらを活用できるようになることである。プログラムは、e-learning を用いた事前学習（約 90 分）と workshop（約 150 分）で構成された。e-learning では、外国人看護師の母国の文化や看護、イスラム教、外国人看護師の就労経験、支援の実際に関する 8 つの講義で構成され、workshop ではグループワークによる事例検討や当事者からのフィードバックを含めた。アウトカムは、外国人看護師に対する異文化間感受性尺度（態度）、外国人看護師の母国に関する知識（知識）、外国人看護師の支援策（スキル）、外国人看護師と働く自信（自信）であり、プログラム実施前（プレ）、直後（ポスト）、2 週間後（フォローアップ）の 3 時点で測定した。プログラム受講者には、プログラム評価アンケートに回答してもらった。ITT 解析を行い、プレテストからポストテスト、プレテストからフォローアップテストの変化量について、共分散分析をし、介入の有無と共変量に交互作用がみられた場合は t 検定をした。有意水準は Bonferroni 法により調整した。本研究は、臨床試験として UMIN へ登録し、聖路加国際大学研究倫理委員会の審査を受けて実施した（承認番号：23-A009）。

【結果】

日本人看護師 120 名が研究へ参加し、介入群 60 名とコントロール群 60 名に割り付けられた。基本属性やプレテスト得点において、両群に差はなかった。プレテストからポストテストの変化量では、介入群は、コントロール群に比べて知識 ($t=14.13$, $p<.001$)、スキル ($B=-1.50$, $p=0.001$)、自信 ($B=-8.38$, $p<.001$) の得点が有意に高かった。態度得点では、有意差がなかった ($B=-3.43$, $p=0.15$)。プレテストからフォローアップテストの変化量では、介入群は、コントロール群に比べて態度 ($B=-8.56$, $p<.001$)、知識 ($B=-2.78$, $p<.001$)、スキル ($t=2.66$, $p=0.008$)、自信 ($t=5.75$, $p<.001$) の全ての得点が有意に高かった。プログラムの満足度では、96%以上の受講者が「満足」、または「少し満足」と回答した。

【結論】

「外国人看護師と協働するための日本人看護師向け教育プログラム」は、日本人看護師の外国人看護師と協働するための態度、知識、スキル、自信を向上させた。日本人看護師が外国人看護師と協働するための教育プログラムとして、効果があることが示された。

Abstract

[Purpose]

This study aimed to examine the effectiveness of the “Educational Program for Japanese Nurses to Work with Foreign Nurses,” which was developed using instructional design and transformative learning theory based on the learning needs of Japanese nurses working with foreign nurses.

[Methods]

This randomized controlled trial assigned the Japanese nurses randomly to an intervention group or a control group. The program consisted of an e-learning (1.5 hours) and a workshop (2.5 hours). The attitude, knowledge, skills and confidence were measured at pre-test, post-test, and two weeks follow-up test. Analysis of covariance and t-tests were used to analyze the mean change between pre-test and post-test, and follow-up test. The significance level was adjusted using the Bonferroni method. Research Ethics Committee of St. Luke’s International University approved this study.

[Results]

Study participants were 120 Japanese nurses (60 in the intervention group and 60 in the control group). There were no significant differences between the two groups at baseline. For the intervention group the mean change from pre-test to post-test, significantly increased for knowledge ($t=14.13, p < .001$), skills ($B = -1.50, p = 0.001$), and confidence ($B = -8.38, p < .001$) scores, but there was no significant difference in attitude score ($B = -3.43, p = 0.15$). Likewise, for the mean change from pre-test to follow-up test, the intervention group significantly increased their attitude ($B = -8.56, p < .001$), knowledge ($B = -2.78, p < .001$), skills ($t=2.66, p = 0.008$) and confidence ($t = 5.75, p < .001$).

[Conclusion]

The “Educational Program for Japanese Nurses to Work with Foreign Nurses” improved Japanese nurses’ attitude, knowledge, skills, and confidence in working with foreign nurses. This program was shown to be effective in educating Japanese nurses to work with foreign nurses.